

Q 16 子どもたちが実際にお店などで社会体験をすることは非常にためになることだと思います。学校教育の一環として、教室を離れて地域社会などでの体験学習を取り入れた授業は行われていないのでしょうか？

A 学校や地域により差はありますが、質問のような取組は現在、少しずつ広がっており、これからもっと増えてくると思います。

小学校や中学校，高等学校で，道徳の時間や特別活動の時間などを利用して，地域の清掃活動や社会福祉施設での高齢者，障害のある人への援助活動，地元の商店での就業体験，田畑での農業体験といった様々な体験学習が行われています。

生活水準や都市化などに伴って社会体験や自然体験などの生活体験の機会が少なくなった現代の子どもたちにとって，このような体験をすることは，勤労の尊さを学んだり，社会のためになることを積極的に行う態度を培ったりする上で非常に重要なことです。体験活動を通じて，子どもたちは社会とかわり，様々な人と接することによって，他人を思いやる心や社会生活を送っていくうえでのルールを学びます。また，将来の自分の進路について主体的に考えるきっかけにもなります。

また，地域の人々にとっても，このような体験学習への協力を通じて，地域の子どもは地域で育てるという気運が高まり，地域全体の教育力の向上にもつながります。さらに，学校にとっても開かれた学校づくりを進めていく上で大変効果があります。

これからの子どもたちにとって，豊かな心を持ち，たくましく生きる力を育成していくことは重要な課題です。そのためには，他人を思いやる心や感謝する心，公共のために尽くす心を育てることなどに特に配慮していく必要があります。

新しい学習指導要領（小学校・中学校では平成14年度から，高等学校では平成15年度から，盲・聾・養護学校ではそれぞれの学校段階に準じて実施されます。）においても，このような体験活

動をより重視するという観点から，各教科の学習や新たに創設される「総合的な学習の時間」や道徳，特別活動などの中で，自然体験やボランティア活動などの社会体験を行うこととするなど，学校の教育活動全体を通じて体験活動をより一層充実させることとしています。

今後も，各学校において，それぞれの地域の協力を得て，様々な体験学習を取り入れた授業や行事等が行われることが期待されます。

インターンシップ

「インターンシップ」とは，産業の現場などで，学生や生徒が在学中に自分の学習内容や進路などに関連した就業体験をすることを言います。

ある高校では，生産流通科3年生の生徒を対象に，地域の産業界等との連携の下，6月から11月までの毎週金曜日の朝から午後3時ぐらいまで，スーパーやデパートなどで「インターンシップ」を行っています。

生徒たちは，それぞれの職場の担当者(従業員)の指導を受けながら，デパートの高級菓子コーナーでの販売やスーパーでの生鮮食品の陳列などの作業に熱心に取り組んでいます。

毎回，実習の終了時には，その日に気付いたことや反省点などを日誌につけ，職場の担当者がその日誌にコメントを記入し，学期末にはレポートを提出しています。

今の高校生は，コミュニケーションをとる大人が，親と学校の先生しかいないことが多いと言われますが，職場の従業員やお客さんとのコミュニケーションを通じて，新たな発見もあるようです。

生徒の感想も「楽しい」「勉強になった」とおおむね好評です。